

→ 国際交流員パトリック・ルムラーの

ドイツを語るパトリック

Vol.6

緑色の波



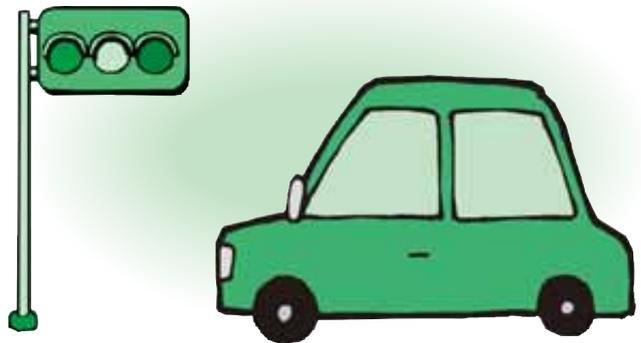
スピード制限をしっかりと守りながら車で走り、信号が次々青になり、市内までの20キロをたったの15分で移動する。私を追い越していったスピード制限を守らない車は1分後、前に見えてくる信号で信号待ち中。近づいていくと信号がもちろん青に変わり、今度はさっき追い越された信号に引っかかっている車を追い越し、ストレスなく、燃費よく、騒音公害少なく目的地まで進行する。

ドイツで、上記のような信号の仕組みは「緑色の波」と称されている。それは、日本と違い、信号が青ではなく、赤から緑色に変化するからである。車を利用する、多くのドイツ人は気づかずに、緑色の波のおかげで毎日のようにストレスのない運転ができる。でも、同じドイツ人でも道路の構成が違う日本でいきなり運転すれば、かなりストレスが上がり、とにかく信号が多すぎると感じる。例えば、下野市から宇都宮市まで移動するだけで、何回も信号に引っかかると緑の波を恋しく思うだろう。

ドイツの人から見れば、下野市と宇都宮市を結ぶ、交通の大道脈である、わりと信号が少ない新4号線さえでも、信号が多すぎる。道路沿いに田んぼしかないところまで信号付きの横断歩道が設置してあり、信号が変わると、急にブレーキを踏みながら、「いったい誰がこんな所で渡るのだろう」と思うドイツ人が少なくはない。

ドイツでは、信号をなくし、代わりにロータリーを増加させる市町村が増えている。信号待ちがなく、移動ができることと車両の流れが早くなることは、ロータリーの利点である。でも、それだけではない。ロータリーの維持費は信号より安く、車両を停車させないまま移動すれば燃費がよくなり、環境の負担も減る。通過するときには車両の速度が一般の交差点より低いことと、大型車は安全に方向転換ができることと、交通参加者は交差点よりお互いのことをよく見ることができるとなどのため、事故の数が交差点より少ない。つまり、ロータリーは交通安全にも貢献する。でも、デメリットもある。ロータリーを作るために、交差点より広い場所が必要なので、土地が狭い日本で、実際に信号をロータリーに変更できる場所は限られているだろう。

緑色の波とロータリーがあまりない日本で運転すると個人的に運転の楽しさより運転でたまるストレスを感じる。職場まで歩くと30分弱。それでも、車で行こうと思わず、歩いて通勤する。途中、車で通りすぎる同僚に「可愛そうだ」と思われるかもしれないが、私は逆に職場から遠く離れて住んで、車で通勤しないといけない人を可愛そうだと思う。



国際交流員 パトリックさんの 「波・トリック」 第4回

じゃがいもグラタンの基本
～実家風グラタンでスタミナ・アップ～

- 講師 パトリック・ルムラー
- 日時 11月29日(日)午前10時～午後1時
- 会場 きらら館
- 参加費 700円(10歳以下は半額)
- 申し込み 11月9日(月)～27日(金)

問い合わせ先

生活安全課 ☎40-5555
Email seikatsu@city.shimotsuke.lg.jp